

発刊にあたって

館長 渡名喜 明

特別展「日本のやきもの—日本民藝館名品展」が開催されている。開館記念特別展以来である。そして目下、県教育委員会に「登録博物館」の申請を提出、審査を待っている段階である。このふたつが済めば、とりあえず「博物館」の当面の体裁は整ったと考えている。いよいよ来年度から第三段階に入る。

紀要2号をお届けする。創刊号に続いて開館を巡る文章や報告で埋めるが、それは、当館の開館を巡る諸経緯を明らかにしておくことはまず市民への情報公開として必要であり、また博物館づくりを計画しておられるところで同じ轍を踏まないことを願ってのことである。

今回は展示構成の案づくりから施行の段階まで、乃村工藝社の側から精力的にこの博物館づくりに関わってきた越真澄さんに玉稿を寄せていただいた。越さんのやわらかい感性にいつも感服しながら仕事を進めてきたことが、読ませていただきながら頭をよぎった。ここに記してお礼を申しあげる。